



大都発第41号-1
平成19年4月27日

国土交通省道路局長 様
(九州地方整備局経由)

大 津 町 長

中期的な計画作成にあたっての意見の提出について (回答)

平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼のありましたこのことについて、別添のとおり回答します。

《担当者》
大津町役場 都市整備課
伊 東
TEL 096-293-3111 (内線 330)

◇大津町の現状

◆町内道路の現状

町内道路網は、幹線道路の3国道及び13県道と、アクセス道路である約400の町道で構成。

国道57号は立野までの4車線化が進められ、県道は北部の菊池赤水線（菊池～阿蘇）、中央部の大津植木線（旧国道57号）と北外輪山大津線（ミルクロード）、南部の瀬田竜田・瀬田熊本線（白川兩岸）があるが、厳しい財政状況の中、整備が町民等のニーズに追いついていない状況。

町道についても、未改良路線の早期整備が望まれている。

◆今後の課題

《産業振興の視点》

本町は、工業団地を造成し、企業誘致の推進を図っている。本田技研工業は、平成20年度から2輪車生産機能の浜松からの移管が決定しており、これらの企業活動の基盤である道路整備は、本町のみならず県産業の浮沈に関わる最重要課題。

《観光振興の視点》

本町には豊かな自然と歴史・文化があり、豊富な観光資源とつつじ祭り等の各種イベント及び娯楽施設（温泉センター岩戸の里等）を生かした地域の活性化を図る道路整備は重要な課題。

広域的には、世界的な観光地である阿蘇への良好なアクセスが求められており、休日等の渋滞を緩和するため、国道57号を補完し、交通分散を図る道路整備も重要。

《生活道路の視点（住民のニーズ）》

本町の東西方向に谷の多い地形と白川の貫流により、熊本市から阿蘇方面を結ぶ東西軸に比べ、空港等を結ぶ南北軸が不足している。南北軸の強化は重要な課題であり、住民のニーズも高い。

◇大津町の意見

①地域の特色を考慮した戦略的な道路整備【重点化】

上記の視点観点から、広域的な物流・交流の基盤となる道路整備、地域の活性化を支援する道路整備等、地域の実情を踏まえた重点的な取り組みが必要。

（広域間を結ぶ幹線道路については、国・県による整備の推進を要望）

1) 大津町内（近隣地域含み）における企業の円滑な経済活動及び町民の生活活動の支援

○広域道路網の整備：重要交通拠点（九州縦貫道IC：北熊本方面）へのアクセス整備

○南北軸の強化：重要輸送拠点（熊本空港）へのアクセス整備

○中九州横断道路（地域高規格幹線道路）の整備促進

2) 休日等の渋滞緩和による観光振興の支援

○地域交流道路（阿蘇・菊池方面）の整備：国道57・325号の交通分散を図る道路整備

②既存道路の有効活用【効率化】

限られた予算で効率的な整備を進めるため、既存道路を活用した道路網計画を策定する。

橋梁等の構造物については、定期的な調査・点検を実施して老朽度等を把握し、補修等の適切な維持管理により、長寿命化を図ることが重要。

③事業連携による道路整備の促進【効率化】

上記の既存道路活用等、効率的な道路整備は、国・県・市町村の連携が必要である。

事業完了・事業中・計画段階の全ての道路（農・林道含み）を対象に、各管理者間で機能兼用等の知恵を出し合い、目的達成に必要な道路網の早期完成に努める。

各種道路を兼用した道路網の構築に際しては、道路規格・構造の整合（大型車の通行量に見合う幅員・舗装構成等）を図るため、計画初期の段階で国・県・市町村間で情報交換できる体制づくりが必要。

以上から、本町が必要と考えている具体的な道路網（イメージ）は別紙のとおり。

大津町道路整備イメージ図

